

すこやか



「足の痛みは万病のもと」講座より

岡村病院(高知市)

これは、皮膚を切開せず
にエックス線で透視しながらカ
テーテル(細い管)を血管内に
進めて治療する方法です。皮
膚を切開することなく、針を

足の痛みを起す閉塞(へ
いそく)性動脈硬化症の治療
法の一つとして最近、大きく
進歩しつつあるものに「イン
ターベンション」がありま
す。



岡村高雄院長

閉塞性動脈硬化症 カテーテル治療普及

痛み少なく入院短縮

刺すだけで治療できるので、
患者さんにとって非常に負担
の少ない治療法として世界中
で急速に普及しています。

米国では、1996年に閉
塞性動脈硬化症の治療法とし
て実施されたのは、バイパス
手術とインターベンションが

2対1の割合でした。ところが
2006年になると、バイ
パス手術がほぼ半減する一
方、インターベンションは約

3倍に増加。今や、バイパス
手術の4倍近くの症例がイン
ターベンションで治療される
ようになっていきます。

実際、われわれの施設で
も、昨年1年間に行った下肢
閉塞性動脈硬化症の治療法の

うち、112例がインターベンシ

ョン治療であり、バイパス手
術は残りのわずか9例です。

インターベンションが治療の
第1選択となり、バイパス手
術が第2選択へと、大きな変
化を遂げつつあります。

インターベンションが増加
し続ける理由としては、何と
いっても患者さんの身体的負
担が少ない点が高齢化社会に
対応していることが挙げられ
ます。

局所麻酔で手術可能なた
め、術中・術後にほとんど痛
みがありません。さらに、場
合によっては劇的な効果が見

られ、カテーテル室で血管を
拡張した直後から痛みが消失
し、苦しみの表情を浮かべて
いた患者さんがその場で眠っ

てしまっているところもあるほど。
入院期間も短く、手術当日に
入院し、手術翌日から歩行を
開始でき、術後数日で退院可
能です。

欠点といえば再発の可能性
がある点ですが、近年、新し
い手術器材の開発やステント
(血管内に留置する筒状の医
療器具)の改良などにより、
再発の可能性は次第に減少し
つつあります。

インターベンションは今後
より一層、治療の主役となっ
ていく可能性があります。こ
のように比較的負担の少ない
治療法が進歩しつつあります
ので、足の痛みがある場合は
早期に受診し、専門の医師に
一度相談した上で、インター
ベンションを含めた治療法を
選択することをお勧めしま
す。